

令和 8 年 7 月 16 日
消費・安全局食品安全政策課

農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害微生物の候補に対する 関心度の評価方法

1. 背景

「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害微生物のリスト」（以下、「優先リスト」）の更新にあたっては、最新の科学的知見や国際的動向に加えて、関係者の関心の程度を検討規準のひとつとしている。

関係者の関心の程度については、消費者、生産者・食品事業者、研究者等の関係者へのアンケートの結果や、食品の安全性に関するリスク管理検討会における関係者からの情報、意見に基づき、危害要因ごとに判定している。

2. 検討表反映までの流れ

現行の優先リストに掲載している有害微生物については、令和 8 年度に実施した「有害微生物に対する関心度アンケート」の結果に基づき、各有害微生物に対する「非常に関心がある」及び「ある程度関心がある」への相対的な回答率の高さにより、関係者の関心度を H、M、L の 3 段階に分類する（3 の分類方法を参照）。

現行の「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害微生物のリスト」に掲載していない有害微生物のうち、アンケートで関係者の関心度を把握したものについては、現行の優先リストに掲載している有害微生物と同様、H、M、L の 3 段階に分類する。

アンケートで関係者から関心が示された有害微生物のうち、今後、「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害微生物のリスト」に含めるかの検討対象とするもの（資料 7 の別紙 1）については、関係者の関心度が把握できていないことから L に分類する。

上記の分類について、「農林水産省が優先的にリスク管理を行う有害微生物の検討表」に反映する。

3. 分類方法

下記の 2 段階で、有害微生物ごとに、属性区分（自治体、研究者、食品関連事業者、消費者の 4 区分）ごとの関心の程度を評価（①）の上、それらの結果を踏まえて、全体としての総合評価（②）を行う。

① 回答者の属性区分別の関心の程度の評価

アンケート回答者の属性区分別に、「非常に関心がある」、「関心がある」及び「関心がない」の合計に占める「非常に関心がある」及び「関心がある」の割合を求め、以下

の基準に従い、h、m、l の 3 段階で評価。

h：「非常に関心がある」及び「関心がある」の割合が 75%以上

m：「非常に関心がある」及び「関心がある」の割合が 50%以上、75%未満

l：上記のいずれも満たさない。

② 総合評価

①の評価結果を踏まえて、以下の基準に従い、H、M、L の 3 段階で総合評価。

H：2 つ以上の属性区分で、h に該当する。

M：H に該当せず、かつ、2 つ以上の属性区分で h または m に該当する。

L：上記のいずれも満たさない。

4. アンケートで回答者の関心度を把握した有害微生物ごとの判定結果

危害要因名		総合 評価	自治体	研究者	食品 事業者	消費者
優先リスト に掲載中の 細菌	カンピロバクター	H	h	h	m	h
	サルモネラ	H	h	h	h	h
	腸管出血性大腸菌 (O157、O111、O26 など)	H	h	h	h	h
	リステリア・モノサイトジェネス	M	m	m	m	m
優先リスト に掲載中の ウイルス	ノロウイルス	H	h	h	h	h
	E 型肝炎ウイルス	M	m	m	l	m
	A 型肝炎ウイルス	M	l	m	l	m
優先リスト に掲載して いない細菌	ウェルシュ菌	M	m	h	m	m
	エルシニア・エンテロコリチカ	L	l	m	l	l
	黄色ブドウ球菌	H	m	h	h	h
	クロノバクター属菌	L	l	m	l	l
	セレウス菌	M	m	m	m	m
	腸炎ビブリオ	M	m	m	m	m
	ビブリオ・バルニフィカス	M	l	m	l	m
	ボツリヌス菌	H	m	h	m	h
優先リスト に掲載して いない 寄生虫	アニサキス	H	h	h	m	h
	クドア・セプテンブクタータ	M	m	m	l	m
	サルコシスティス・フェアリー	M	m	m	l	l
	トリヒナ	M	l	m	l	m

5. アンケートで回答者の関心度を把握した有害微生物の判定結果まとめ

H (7 微生物)	• カンピロバクター • サルモネラ • 腸管出血性大腸菌 (0157、0111、026 など) • ノロウイルス • 黄色ブドウ球菌 • ボツリヌス菌 • アニサキス
M (10 微生物)	• リステリア・モノサイトジェネス • E型肝炎ウイルス • A型肝炎ウイルス • ウェルシュ菌 • セレウス菌 • 腸炎ビブリオ • ビブリオ・バルニフィカス • クドア・セプテンpunkタータ • サルコシスティス・フェアリー • トリヒナ
L (2 微生物)	• エルシニア・エンテロコリチカ • クロノバクター属菌

アンケートに基づく属性区分別の関心の程度の評価結果

(1) 自治体

危害要因名	関心度	
ノロウイルス	88%	h
カンピロバクター	85%	
腸管出血性大腸菌	84%	
アニサキス	83%	
サルモネラ	80%	
ウェルシュ菌	72%	m
黄色ブドウ球菌	71%	
ボツリヌス菌	69%	
クドア・セプトエンテリタ	66%	
セレウス菌	58%	
腸炎ビブリオ	58%	
E 型肝炎ウイルス	55%	
リステリア・モノサイトジェネス	54%	
サルコシスティス・フェアリー	52%	l
A 型肝炎ウイルス	48%	
ビブリオ・バルニフィカス	47%	
トリヒナ	46%	
エルシニア・エンテロコリチカ	46%	
クロノバクター属菌	35%	

(2) 研究者

危害要因名	関心度	
ノロウイルス	92%	h
腸管出血性大腸菌	91%	
カンピロバクター	88%	
サルモネラ	88%	
アニサキス	87%	
黄色ブドウ球菌	80%	
ボツリヌス菌	79%	
ウェルシュ菌	75%	
腸炎ビブリオ	72%	m
クドア・セプトエンピクタータ	70%	
セレウス菌	65%	
リステリア・モノサイトジェネス	64%	
E 型肝炎ウイルス	62%	
サルコシステイス・フェアリー	60%	
トリヒナ	59%	
ビブリオ・バルニフィカス	57%	
エルシニア・エンテロコリチカ	54%	
A 型肝炎ウイルス	53%	
クロノバクター属菌	52%	

(3) 食品関連事業者

危害要因名	関心度	
ノロウイルス	87%	h
サルモネラ	83%	
腸管出血性大腸菌	83%	
黄色ブドウ球菌	77%	
カンピロバクター	74%	m
アニサキス	72%	
ボツリヌス菌	69%	
セレウス菌	66%	
ウェルシュ菌	63%	
リステリア・モノサイトジェネス	61%	
腸炎ビブリオ	57%	
クドア・セプトエンピクタータ	45%	l
E 型肝炎ウイルス	41%	
クロノバクター属菌	39%	
A 型肝炎ウイルス	37%	
ビブリオ・バルニフィカス	36%	
サルコシステイス・フェアリー	34%	
エルシニア・エンテロコリチカ	33%	
トリヒナ	31%	

(4) 消費者

危害要因名	関心度	
ノロウイルス	92%	h
アニサキス	91%	
腸管出血性大腸菌	87%	
カンピロバクター	87%	
サルモネラ	86%	
ボツリヌス菌	80%	
黄色ブドウ球菌	78%	
ウェルシュ菌	70%	m
腸炎ビブリオ	68%	
セレウス菌	66%	
クドア・セプテンpunkタータ	59%	
E 型肝炎ウイルス	59%	
リステリア・モノサイトジェネス	57%	
A 型肝炎ウイルス	56%	
ビブリオ・バルニフィカス	53%	
トリヒナ	51%	l
サルコシステイス・フェアリー	49%	
エルシニア・エンテロコリチカ	40%	
クロノバクター属菌	38%	